平成29年度 春季特別企画展

にたいの美しさ

女体はなぜ絵になるのか？

Why is the nude a fascinating motif in art?

平成29年5月15日（月）
～5月19日（金）

開場時間：12:00-17:30
場所：金沢美術工芸大学
大学院棟2階展示室

金沢美術工芸大学
美術工芸研究所
KANAZAWA COLLEGE OF ART
Research Institute of Art and Design
石川県金沢市小立野5丁目11番1号 076-262-3519

入場無料

藤森兼明「裸婦」 制作年不明 金沢美術工芸大学蔵

駅前、公園、ホールのロビーなど、わたしたちの周りには多くの彫刻作品が展示されています。中でも、目につくのが裸婦像でしょう。また、美術館にも彫刻・絵画共に多くの裸婦像が展示されており、日頃からたくさんの鑑賞を集めています。それは、実に日常的な光景であり、それを不思議に思う人はいないのではないでしょうか。

芸術の世界において、裸婦は至極一般的なモチーフのひとつです。しかし、ふと考えてみると多くの人が行き来する往来に、裸の女の人の像がたたずんでいるというのは非日常的な光景のようにも見えます。芸術における裸体像は単なる「ハダカ」ではなく、「ヌード」として許容されている表現であると言えます。

特に裸体表現に女性像が多いというのは、何かそこに理由や魅力があるのではないでしょうか。今回は大学所蔵のさまざまな分野の裸婦像を特集することで、裸体の意味とモチーフとしての魅力について考えていきたいと思います。

【同時開催中】
図書館棟二階
美術工芸研究所ギャラリー
精選 金美の美
～美大所蔵の名品たち～

会期　：2017.04.11-2017.06.03
開室時間：水・木・金曜日　10:00-17:00
　　土曜日　10:00-15:00

にたいの美しさ

女体はなぜ絵になるのか？

The beauty of women's nude.

冨田温一郎「手鏡の裸婦」
大正13年（1924）
金沢美術工芸大学蔵

【展示作品】

■洋画家の裸婦■

東典男「膝をつく裸婦」　一九九四年
冨田温一郎「手鏡の裸婦」　一九二四年
鴨居玲「裸婦」　一九七九年
宮本三郎「椅子に寄る女」　制作年不明

■日本画家の裸婦■

加山又造「裸婦」　制作年不明
鳥海青児「裸婦」　制作年不明
百々俊雅「楽しい刻」　二〇〇二年
広田多津「婦人像（画稿）」　制作年不明
広田多津「婦人像（小下絵）」　制作年不明

■彫刻家の裸婦■

柳原義達「裸婦」　一九八六年
柳原義達「人物」　一九九一年
高田博厚「カテドラル」　一九三七年
松田尚之「羽衣」　一九六八年

■藤森兼明の素描■

藤森兼明「座す女」　制作年不明
藤森兼明「裸婦」　制作年不明

ほか

金沢美術工芸大学
美術工芸研究所
KANAZAWA COLLEGE OF ART
Research Institute of Art and Design
石川県金沢市小立野５丁目１１番１号　076-262-3519

＊大学には駐車場がございません。お帰りの際は公共交通機関をご利用ください。